

I テーマ 自分から学び、考え、やりぬく浦里っ子  
～一緒にできた、みんなでできた～

II テーマ設定の理由とねらい

本校では令和6年度から、「自分から学び、考え、やりぬく浦里っ子～多様な人と学び合いながら～」をテーマに、主に協働的な学習に焦点を当てて研究を進めた。昨年度は、多様な人と協働的に学ぶことよさを実感することができる児童の姿を目指し、実践に取り組んだ。意見交流カード、ICTの思考ツールを用いた多様な考えの共有、学び方の選択の視覚化などの手立てを用いたことで、児童は多様な人と学び合うよさを実感することができていた。

一方で、協働の目的や視点を十分に示すことができず、何のために協働しているのか児童にとって明確ではないことや、誰とどのように協働を行うことが課題を解決するために有効であったか振り返ることができず、協働の方法が改善されていないなどの課題があった。

2年目の本年度は、「協働の仕方を考えよう」をサブテーマとし、課題を解決するための協働ができたかどうか焦点を当てていく。課題を解決するための協働ができる児童は、以下のような姿を見せる。

課題を解決する（身に付けたい力を付ける）ために、効果的な協働の仕方考えることができる。また、その選択が解決に有効であったかどうか振り返り、改善することができる。

課題を解決する上で、効果的な協働を考えさせる工夫や、協働の仕方を振り返る手だてを講じることで、課題を解決するための協働ができるようになった先に、自分から学び、考え、やりぬく浦里っ子を目指したい。

III 研究の内容

0 協働の要素の揭示

協働するとよいことや相手・人数などを「協働の要素」として浦里小統一の掲示物を作成し、学級で掲示する。（下は現時点の例で、4月の推進委員会で意見を吸い上げ、追加します。）

- ・アドバイス ・確かめ合い ・聞いてほしい ・他の考えがほしい
- ・得意な人に ・2人で ・たくさんで

1 手立て

(1) 「協働の仕方の工夫」

自分のしたいに合わせて行う。

- 【例】 ・選択の視覚化（「進度」「テーマ」「課題」など） ・考える視点を与える  
・作戦タイム（どのように協働して目標に向かうのか考える時間をとる） など

(2) 「協働の仕方の振り返り」

課題を解決するために、協働の仕方が適切であったのかを振り返り、次の学習に生かすことができる場を設定する。各部会で振り返りカードを作成する。

## 2 学級を越えた取り組み

### 【授業や特設のイベントで考えられる実践例】

- ・異年齢交流ができる学習を行う
- ・たてわり班での協働の仕方勉強会の開催
- ・出前授業や校外学習等での講師との関わり など

## 3 評価方法

- 各部会で具体的な目指す児童像を設定する。
- 単元や授業時間の最後に、児童の考えを表出する活動を設定し、記述や発言による児童の変容
- 質問紙による児童（前期実践前・後期実践後）、保護者・教員（年度末）の意識調査

## 4 その他

保護者・地域への啓発として、学校 Web ページへの掲載や学校だより（みんなの浦里）に取組の様子を掲載する。（家庭との連携）

## IV 研究の進め方

推進委員が中心となって研究の方向や進め方を提案し、各部の連携を図りながら実践を進める。校内全体で、児童・保護者・職員が理解して行っているという一体感をもつ。

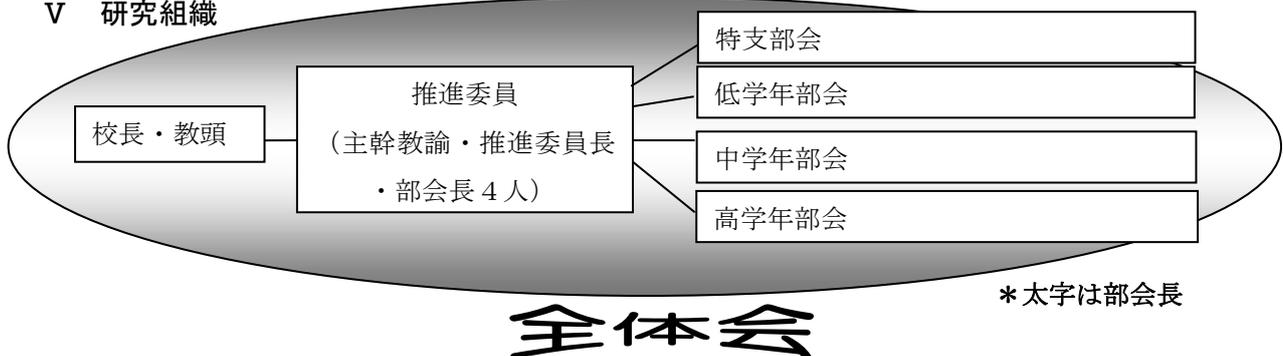
**全体会**・・・（メンバー全員）

- 全体協議の場で、研究の進め方について共通理解を図り学び合う。
- 各部会の活動内容の情報交換、協議や検討を行う。

**学年部会**・・・（低・中・高・特支部会）

- 担任は前期・後期に実践を行い、そのうち1回は授業公開を行う。各部会で1学期（5月～7月）・2学期（9月～11月）に1回ずつ公開授業を行う。
- 最終報告書には、一年間の実践をまとめる。 **※別紙1**
- 部会で事前検討を行い、授業参観者は事後検討をする。（学年部会と有志）
- 4月、9月、2月いずれかの授業参観や学年だよりで努力点の取り組みが分かる工夫（授業実践、教室掲示など）を行う。4月・2月の学級懇談会で保護者に啓発を図る。
- 各部会は、授業日の**1週間前までに部会を開き、指導案の検討をする。** **※別紙2**
- 授業者は、学習指導案（略案）を**授業3日前までに教職員に配付する。**

## V 研究組織



\*太字は部会長